

KSKPコリアボランティア協会ニュース, No.17 (1995年12月号)

コリアボランティア協会編集部編

発行:大阪 : コリアボランティア協会, 1996.2.12. ; 8p

請求記号:震災-7-z82

※震災関連記事のみテキスト化しています

10月29日（日）、西宮市最大の枝川仮設住宅（800戸）での

枝川ふれあいチャンチ（=祭り）大盛況！

KJC（韓国大阪青年会議所）が主催し、コリアボランティア協会がコーディネートした仮設住宅でのお祭りイベントは、中之島まつり協会、大阪YWCA、それに地元のすばる舎、三田谷学園、大阪ガスなどの協力を得、仮設住宅の人たちはもちろん、近くの団地の人たちも応援にかけつけたりで大いに盛り上がった。

当日は、草むしり、相談コーナー、ピエロ、出店、物資、ゲーム、ステージと盛り沢山で、フィナーレでは感極まって、「今日は生まれて一番楽しかった日やった」という声まで聞かれ、スタッフも涙する場面があった。

ボランティアの需要はますます拡大している。ネックはいつも資金面である。コリアボランティア協会でも、日常の介護活動に加え震災支援の継続拡大化に伴って、財政難が死活問題となってきた。

今回はKJCの全面的バックアップがあっとうまく行ったものの、これからどうなるかは見当がつかない。今や、資金援助も大切なボランティアの一つのである。人材は豊富にある。法人化に向け有志の方のカンパを待つのみである。（●）

[写真あり 風船でいろんな動物を作って配る、ピエロボランティアは子供達の人気を呼んで大盛況!!中央左はピエロに扮するボランティア員の中川祐子さん。<10月30日（月）付 サンケイ新聞より> 省略]

”来年に向けて”

鄭炳薫

枝川ふれあいチャンチ（1面に掲載）で一番聞かれたのは、「店がほしい」という声だった。これは他の仮設住宅でも最も多く聞かれた声だった。

来年7月には西宮市あげての震災復興宣言祭を企画しているが、仮設住宅に仮設店舗を造る計画も同時に進めたい。問題は資金面である。法人化するまでは行政の援助は期待薄で、日常の介護も拡大する中、協会の存続自体が危うい事態になっている。

3面に挙げた様々な会合に参加したのも、資金カンパをアピールするためであったが、反応はまだまだで、やはり資金援助によるボランティア参加が切に待たれるところである。
